

とういんグッドニュース新聞は、全国から届けられた身近なグッドニュースでつくられる新聞です。
健康と活躍のまち東員町から、毎月ポジティブな話題を発信しています。



東員北部山田溜公園の梅

TOIN GOOD NEWS PRESS

2023 03
とういんグッドニュース新聞 11

ワカサノヒケツ

最近、会って話をする人たちの目が輝いていることが多い。あまりにも多いので不思議に思い、それぞれにわけを話して、理由を聞いてみた。

するとわかったのは、仕事であつたり、スポーツであつたり、音楽であつたり、推し活であつたりと、共通することは、何か熱中することがある。ということだった。

そして、それを話す時の顔がまた良いこと(笑)。

自分よりも歳が一桁どころか二桁上の先輩たちが、まるで遥かに若々しく少年少女のように

映る!

その知識がこちらにないとかると、微に入り細を穿つ説明までしてくれて、あまりにも楽しそうに話すものだから、聞いているほうも興味湧いてくる。しかし、それ以上にこみ上げてくる感情が実はあつて……それは「うらやましい!」だ。

こんなこともあんなこともしたいと思いつながら「日々の生活が忙しいから落ち着いたらねえ」なんて行動せずにいたのは、無意識にやらない理由を探しているだけなんだろう。

自分よりも遥かに忙しい日々

を送っている人たちが知っている。と知ったら、まったら、いてもたってもいられない。何かチャレンジをするには良い季節! 春を迎える前に動き出そう!

なんだか、長い冬眠から目が覚めたような気がするのは気のせいではないのだろうか。

(岐阜県・トウショウ・57歳)



魔法のこぼれ

言葉の力とは不思議なものです。この1年の間、わたしは意識的に「ありがとう」と発する量を増やしてみました。その結果としての今、「ありがとう」は連鎖していくものだと身をもって実感しています。

連続なんですよね。

「いつもおいしい料理をありがとうございます。」

「この料理、手間かかったよね、ありがとう。」

「お箸とつてくれてありがとう。」

こんな情景を思い浮かべて胸やけされる方も多いのではないのでしょうか。以前であれば私も胸やけしていたと思います。しかし、事あるごとに、感謝する対象に気づいたとき、必ず言葉にして伝えるように心がけて生活してみたのです。

「ありがとう」を伝えてもらえる量がグンと増えました。次第にお互い元気に生きていくだけでなく、ただただありがたくなつてきて。最近は朝起きて、陽の光を浴びるだけでも感動しています。優しい気持ちで過ごせるようになってきました。

そもそもこの世に当たり前のことなんて無いのですから、すべてに大袈裟なほど感謝するくらいでちょうどいいのかもしれないですね。最後までお読みいただき、心からどうもありがとうございます。文章を介してですが、この一期一会に感謝いたします。

(東京都・菊池大幹・37歳)

言葉の力とは不思議なものです。この1年の間、わたしは意識的に「ありがとう」と発する量を増やしてみました。その結果としての今、「ありがとう」は連鎖していくものだと身をもって実感しています。

感謝の気持ちを伝えることは、コミュニケーションにおいて大切ですよ。月並みなことを申し上げているのは承知です。でも、本当に日常生活の中で相手に伝えきれているのだろうかという疑問を投げかけてみると、できていないときも多いことに気づきます。

たとえば、食卓のシーンをひとつ切り取ってみても、感謝の

そのうち意識をしなくても口をついて出るようになり、身近な人からも「え? そんなささいなこと?」というシーンで

祖母

と猫

おばあちゃんが弱った子猫を助けたときの話です。

その子猫は、親猫か、他の猫がつれてきた子猫でした。

子猫は病気なのか、片目からうみがでていて、つぶれているようにも見えました。

子猫が弱っている様子を見て、おばあちゃんが家の中へつれていき、哺乳瓶でミルクを飲ませたり、体を温めたりして、看病をしました。私は何かをすることができませんでした。

ただ、子猫が元気になっていく様子を見て、おばあちゃんがすごい人なんだということ、子猫が可愛いことが分かりました。

今ではその子猫は、大きく立派なおばあちゃん大好き猫になっています。

私も祖母のように、動物を助けられる人になりたいです。

(東員第一中学校・2年生・石井瑚々志)



書店から巣立つ君たちへ



書店にはいろんな人が働いています。正社員として働いている人は想像されるよりもずっと少なく、大半は契約社員やアルバイトの非正規雇用。中でも学生アルバイトは夕方以降の貴重な戦力として重宝されています。

しかし、世代間のギャップを埋めるのは難しく、時には彼らを繋ぎ止めておくのに苦慮することもあります。

書店は薄利な商売で、なかなか従業員にお金を割けません。待遇面の不満が学生スタッフの退職の原因となることも少なくないほどです。しかし、できることがないわけではありません。

私は人の話を聴くのが好きです。学生スタッフの話も時々聴

かせてもらいます。彼らの悩みの大半は学業、恋愛、人間関係、将来など。私は特にアドバイスすることもなく、ただひたすら聴いています。時折、質問を投げかけて思考を深めてもらいます。

学生スタッフも3年生にもなると就職活動が始まります。特に今の学生はコロナ禍で、それ以前のような学生らしい生活を送ることはできませんでした。「ガクチカ(学生生活で力を入れたこと)」などと聞かれても答えられないわけがありません。履歴書やエントリーシートに何も書くことがない、と訴える学生アルバイトさんの時間をちょっといただき、今の気持ちや、生い立

ちなどを聴かせてもらいます。そして、「仕事で大切にしていることって何？」って訊くと、これが結構出てきます。学生アルバイトだって、ちゃんと仕事をやる上で大切にしていることがあります。「笑顔」だったり「親切」だったり。そりゃ、まだまだ荒削りかもしれないけれど、それを磨くのは社会に出てからだって遅くない。これに気がついてくると、履歴書やエントリーシートもなんとか埋められます。

(大阪府・野坂匡樹・51歳)

魔法の滑り台

我が家の子どもたちが大好きな大きな公園の複合遊具には、さまざまなタイプの滑り台があります。

長いローラータイプ、小さい子向けの緩やかなもの、そして息子の大的お気に入り、トンネルタイプです！

その滑り台はトンネル状態で、ぐるぐると螺旋の形状をしていて大人でもドキドキワクワクする逸品。

私もこの滑り台が大好きなのですが、その理由は、滑り終わるとみんな、滑ってきたトンネルに向かって「いーよー！」と

声をかけるからです。

待っている時はみんな言葉少なに並んでいるのに、何故か滑り終えた後には大きな声で。

トンネルの向こうから「いーいー？」と声が届く時もあります。その様子に周りで見ている大人たちも思わず笑みがこぼれます。

このトンネルを介すとなぜかフレンドリーに、親切になる。周りの人たちにも幸せな気持ちを届ける。

それはそれは、素敵な魔法の滑り台なのでした。

(愛知県・あさくらさん・42歳)



走行会のこと

仲間うちで走行会と呼んでいる。特にグループの名前はない。イベントを企画するわけでもない。週に1度、メンバーの都合を考慮して集まり近場を走る。4人メンバーの家に近い、三岐鉄道北勢線の大泉駅隣にある農産物直売所「うりぼう」に集まる。全員が参加できて、雨が降らないことが開催の条件である。

ロードバイクかクロスバイクで走るが、昨年は、メンバー全員がマウンテンバイクを手に入れたので、これまでとは変わった走り方をするようになった。近場の道は走り尽くした感があつたが、コースのバリエーションが増えた。新しくマウンテンバイクに乗り始めたメンバーにも無理のないダートコースや林道にも行ける。

どの自転車に乗るか、事前の打ち合わせ事項が1つ増えたが、メンバーの思いつきでどちらにするかを決める。昨年1年間の記録を集計したところ、クロスバイクかロードバイクで走った回数が15回、マウンテンバイクで走った回数が16回だった。走行距離はというと、前者が522km、後者は525km。計算して走ったように、回数も走行距離もほぼ同じである。1回おきに走るとか、毎回の走行距離を決めているというわけではない。思いつきで自転車とコースを選んでいて、この結果は奇跡の数字である。平均年齢が70歳を超えるメンバーの勘と知恵は侮れない。走り方は入門ライダーの域を出ないが、それなりの結果を残す。仲

仲間うちで、何でもないことを褒め合い、自画自賛し、がんばり過ぎないようにがんばる。高齢者の走行会はまだまだしばらくつづく。

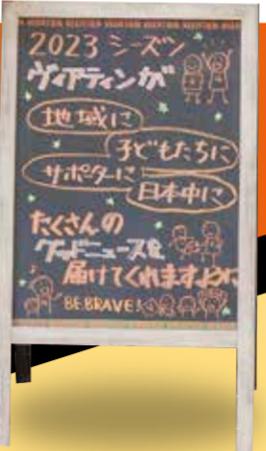
(東員町・MARIOBIKE・71歳)





\\シーズン開幕直前！\\ ヴィアティンサポーター 勝手に座談会

V e e r t i e n M I E



JFLの2023シーズンが3月12日(日)によいよ開幕！
そこで、東員町にホームスタジアムを置くヴィアティン三重のサポーター4名にお集まりいただき、昨シーズンの総括から今シーズンへ向けての想いなどを熱く語っていただきました！

昨シーズンのトピックスは？

開幕3連勝ですね！
あー！ だよね！
開幕で連勝して始まるシーズンは初めてだったから、ランキング1位をみんなスクショに撮っていました！
たとえ一時的でも1位になっていることがうれしい！
ホームでの奈良クラブとの試合で、3対1で離されていたのが追いついて終わった。これはすごくよかった。
ホームでというのが大きい！
いままではホームに弱い印象で、勝っていたのに追いつかれて終わることも結構あったのが、同点に追いつく、負けないうて手応えがあったよかった。その分、ドローが多いシーズンだったかも(笑)。
ほんとに勝ってほしいけど、勝ち点1はそれでもうれしい！
今年はそこを勝ってほしいよね！ホーム開幕後すぐに推しの寺田選手がゴールしたことも思い出です。JFL開幕当日、全国でいちばん最初にゴールした。日本最速の男！(笑)
しかもデイフェンスが！(笑)
鈴鹿ポイントゲッターズとのホームゲームもよかったですね。過去最多の集客があった試合で4対1の圧倒的な勝利を飾ったというのはいびれました！ 試合が終わったあとのみんなの高揚感、選手の雰囲気も違った。

独断と偏見で選ぶ！勝手にMVP【攻撃編】

タムシヨ(10番・田村翔太選手)かな、やっぱり！ 反応や動きの速さがすごい！ いままで見てきたヴィアティンの選手でいちばん足が速いんじゃないかなって思うぐらい。それと最後まで諦めないゴールへの執着の強さ。本当に来てくれてありがとう！
はずしたときの悔しがり方も違う！
そうそうそう！
私は大竹くん(9番・大竹将吾選手)！
出場してきたら、なにかやってくれる！
私もそう！ 出てきたらね、得点入れたり！
持っている人(笑)。
若いから、もっと早くから出たいと思っているだろうけど……終盤に出てきてめちゃくちゃ決めるからすごいよね。
私は川中くん(22番・川中健太選手)。途中から移ってきて、やるぞ！ という気合だけじゃなく、いろんな気持ちを背負っていると思う。得点も決めてよかった！
私は池田選手(24番・池田直樹選手)です。奈良クラブ戦のときにひとり何人も抜いて点を決めたときは、ドラマでも見ているかのようにとにかくすごいひとことでした！
上がっていったもんね！
さすが「俺たちの池田」と呼ばれるだけあるよね！(笑)
全 (笑)

勝手にMVP【守備編】

これは全員守備推しの4人としては……。
難しい(笑)。
も (ボソッと) 谷奥(2番・谷奥健四郎選手)。
全 おおっ！ あえての！
も あえての(笑)。J2のチームから故郷のJFLのチームに来て、キャプテンを務めてくれて、いいなって。チームへの貢献度もそうだけど、守られてるなって思う(笑)。
ほんとにセンターバックにぴったりの人な気がする。人柄的にもプレースタイル的にも。
私はモリケン(1番・森建太選手)かな。やっぱりいてくれると安心感がある。またすごいとしか言葉が出てこないけど、すごい！(笑) スーパーセーブがね(笑)。
私もモリケンかなあ。
コーチングがね、またね。べつに私にコーチングしてくれてるわけではないんだけど、励まされるみたいな気持ちになる。
全 ああー！ わかる(笑)。
私はテラくん(4番・寺田匡史選手)で。オンとオフの切り替わり方がすごい！あの温厚な人が、なぜ試合だとこんなアグレッシブなんだろう？ ってぐらい本当に全身で守りにいく。ヴィアティンではあまりないけど、わりと負傷したり、鼻の骨を折ったりなんか……。
も 10回近く折れたことがあるらしいね。
し 何度も折っても果敢に突っ込んでいく姿に胸を打たれます！
全 いいこと言うー！(笑)

2023シーズンに向けて！

も 社会人のときから応援しているので、ヴィアティンがどのカテゴリーでも好き。ただ、選手やチームが昇格することを夢として持っていてはいる以上、同じ夢を見たいなと思います。去年昇格ができなかったことで、悔しかった思いを次のシーズンに、と残ってくれた選手もいるとお聞きしました。それを一緒に果たせたらと思います。
し たくさん得点をして、たくさんセーブをして上位を突っ走ってほしいなと思います。きつと上がるだろうと思うチームは、途中からゾーンに入っているかのように、誰も止められない。ヴィアティンにもその



に=西岡さん
サポーター歴6年



な=なもパンさん
サポーター歴2年



し=清水さん
サポーター歴9年



も=モリさん
サポーター歴9年

ゾーンに入って、JFL昇格を決めた過去がある。そのときは、選手にもサポーターにも味わったことのない不思議な高揚感があったと思う。今年のチームで、みんなあの高揚感を味わって上がりたいと思います。
に 選手もサポーターもスタッフも、みんなの笑顔がひと試合でも多く見られるように。もちろんその先に昇格とか優勝もあるとは思いますが、点を入れたいと勝てないわけで、とにかくゴールをたくさん決めてほしい。その先に笑顔がきつとついてくる。みんながとにかく笑顔になれる試合をたくさんというのが嬉しいです。
全 ええこと言うやん！(笑)
な 地元でサッカーの試合を観ることのできる環境があるというのは、本当にありがたいことだと思います。選手にも身近で会えたり(笑)。こういった環境があること、試合を観に行くとおもしろいということをもっとみんなに知ってほしい。知らない人に興味を持ってもらうためにも、勝てる試合をしていかないとはいえませんが、地域みんなが盛り上がり上げていけたらいいなと思います。
全 いいこと言うー！(笑)

冬のすきなものの

わたしは冬のこたつがすきです。どうしてかと言うと、家にこたつがないからです。びっくりにしたでしょう。こたつを買おうと出られなくなるからです。

大すきなのにないなんて……と思いますか？ わたしもお母さんも妹もお父さんもほしいのに、ないのです。

でもおじいちゃんのおうちにいくとこたつがあるから、冬のおじいちゃんのおうちもすきです。おじいちゃんのおうちのこたつで一人でねるのがすきです。こたつでねているとなぜか楽しいゆめしかみない……なぜだろうと思います。

だからわたしはこたつのファンです。

(稲部小学校・3年生・脇濱ことの)

わたしは冬のお母さんがすきです。見るのがすきです。

なぜなら、わたしが、「さんば行こうよ。」と言ったら、「やだよ。寒いもん。」と言うので、思わず、笑っちゃいます。そんなおもしろいお母さんがすきです。

お母さんは、ことわるだけじゃなくて、一しよに中で遊んでくれます。寒い日は、中で一しよに遊べるからうれしいです。なので、わたしは、冬のお母さんがすきです。

(稲部小学校・3年生・諸戸れいあ)



絵本の世界

活字離れや電子書籍の話題をよく耳にする昨今ですが、私は最近、紙の絵本の魅力を再確認しています。

自分が小さい頃は、両親が勤めに出ていることもあって1人家の中で過ごす時間が多かった為、よく絵本を見ていた覚えがあります。

しかし、徐々に大きくなるにつれ手に取ることは減り、大人になってからは気になるタイトルがあっても、日々の忙しさから腰を据えて読むことはありません。

せんでした。

子どもが産まれてから、少しずつ我が家にも絵本が増えて、子どもに読み聞かせる中で改めて絵本を読むのって楽しいなと感じることが多くなりました。

子どもが大きくなり、自分で本を読めるようになってきても、本屋さんに行った際には気がつくくと絵本コーナーに足を向けていたり、休日には図書館に行き、絵本を探して読んだりもしています。

絵本は子どもが読むもの、と、

つい固定観念で思いがちですが、短い文章の中に作者の想いが表現されていたり、絵で伝えられる世界観からは、そこに描かれていない背景まで想像させてくれたりもして、大人でも楽しめるものばかりです。

クスッと笑えるもの、悲しいもの、怖いもの、愛してるよとストレートに伝えてくれるもの、世界中のたくさんの作者たちが、それぞれの想いをこめて作った絵本。

絵本には子どもたちはもちろんのこと、全ての人の心を癒してくれる素敵な世界が広がっているのだと思います。

(愛知県・はちどり・40代)

追悼・石垣定哉さん

今年1月初めに石垣定哉画伯が逝ってしまった。享年75歳。

脳梗塞に倒れ左半身が不自由となり15年間の闘病生活、東員が生んだ世界的芸術家の半生をミュージカルにと取材を始めたのは数年前、東員ミュージカル10周年に当たる昨年『碧の向こうへ Homage for SADA YAKUSHIGAKI』として上演したのは11月末の事、それからひと月余り。

高校卒業間際、「絵描き」になる事を父に告げると猛反対され大喧嘩になったらしい。浪人が決まり、東京へ出る前日の夜中まで激しい言い合いとなった。しかし翌朝、定哉さんを名古屋駅まで見送った。別れ際、定哉さんのポケットに突っ込んだ父の手には、3か月分の生活費が握られていた。芸大卒業後、浪人時代に知り合った奥様と生まれたばかりの長男を連れ、武者修行にニューヨークへ渡った。

日本を発つ日、東京羽田空港には祈るように見送る父の姿があった。1970年頃のニューヨークの治安はひどく、ピストル強盗にも襲われた。額に銃口を突き付けられ、生命を脅かされたという。

その後、何度も世界中を巡り描き続けた。東員育ちで天真爛漫、お酒が大好きで人懐っこい性格は言葉の壁を越えて世界中の人と繋がった。ジョン・レノンに気に入られ、ダコタ・ハウスに招かれたのは定哉さんがまだ売れる前の事である。

いつか息子が名のある画家になる事を信じて、畑を売り、東員にアトリエを建てた父は、その成功を見る事なく60代半ば病で亡くなった。その後、実に8回もの落選を経て、1986年の昭和会展で昭和会賞を掴み取ったのだった。

94年、ニューヨークのフォーブス・マガジン・ギャラリーでの個展は世界中のセレブを魅了し、深みのある独特な青はイシガキブルーと呼ばれた。売れっ子画家は年の3分の2は海外を拠点とし、日本に居ても帰郷できたのは少しの

間、その間も来客は絶えず、常に誰かが来るか、何処かに呼ばれるか。

その定哉さんをずっと陰で支えた奥様に感謝を込めてスポットを当てたく、物語にしたかった。「私の事はいいから書かないで、定哉の事だけを書いて」と固辞されたが、私が押し切った形だ。本番1週間前、稽古場で定哉さんと奥様だけに歌ったミュージカル曲「この町の色」。皆が歌い終わると、定哉さんも奥様も目を腫らし何度も「ありがとう」と言ってくれた。それを見て皆泣いた。私も泣いた。この作品は必ず成功すると確信した瞬間だった。

息子の活躍を見届け、長生きされた定哉さんの母。亡くなられた後、遺品の整理で押し入れの襖を開けて「こ、これは……」と驚いた定哉さん。目の前にあったのは、苦勞していた時代に辛うじて田舎の画廊で売れた筈の絵の数々だった。

支え、支えられ人は生きています。与えられた瞬間を精一杯生きてこそ何かが生み出せる。そんな事を教わった気がしています。

故郷東員をこよなく愛し、世界を股にかけて偉大な芸術家に、最大の賛辞を贈り心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(本紙チーフ・野村幸廣・57歳)



編集室より

とういんグッドニュース新聞の通常号としての発行は、本年度は今号で最後となります。1年間のご愛読とたくさんのご投稿、ありがとうございました！

次号は「おみごと！があふれる東員町創生と次世代人材育成」をテーマに行なわれた、三重大学の学生さんたちと水谷俊郎町長による懇談会のような内容を全面特集でお届けします。